

河正雄さんは二つの故郷を持っている。

一つは両親が生まれ育った韓国霊岩、そして自身を育ててくれた田沢湖町（現仙北市）である。

河さんは在日二世としての出自ゆえ、その人生の歩みは決して平坦ではなかったはずだ。

しかし、悲しみや苦しみを人生の糧とし、希望を持って、真つ直ぐに自らの道を切り拓いてきた。

美術に対する萌芽は、早くも小学校時代から始まった。

高校では絵画部を創設するなど積極的に活動し、画家を夢見た時代もあったという。

その後、美術への関心は作品蒐集に向かう。とりわけ、当時日の目を見なかった在日作家の作品を中心に、コレクションが始まった。

そのやさしく温かい眼差しは、今を懸命に生きる人々に等しく注がれてきた。

また心のひだまで触れ合う交遊が、画家たちを鼓舞し、創作意欲をかき立てもした。

現在、生涯をかけて集めた6000点を超える作品群は、光州市立美術館など各地に収蔵され、それぞれが安住の地で光り輝いている。

この度は、近々霊岩郡立河（HA）美術館に収められる100余点の作品を、寄贈を前に仙北市で公開する企画である。

展覧会は「故郷」をメインテーマに、〈ふれあい〉〈友愛〉〈祈り〉の3コーナーで構成されている。

〈ふれあい〉では、ヘンリー・ミラー、ベン・シャーン、山下菊二、岡本太郎、張栄一、郭桂昌など、各国の画家12人による美の競演、

〈友愛〉では、日本の現代美術に影響を与えた郭仁植、孫雅由、沖縄南蛮焼を現代に甦らせた陶芸家中川伊作、韓国を代表する写真家朴哲の諸作品、

〈祈り〉では、二つの祖国を題材にした関根伸夫の大作や、秋田おぼこを彷彿とさせる市橋とし子の人形など、17人の画家や彫刻家の、平和を祈念する作品の展示である。

すべての展示品は、河さんの二つの故郷の泰平と友好への思いに満ちあふれている。

中でも朴哲の2枚の写真は、霊峰月出山と神秘の田沢湖が、抜けるような青空のもと、一つにつながって、両市の明るい未来を予見しているようだ。

## ハ ジョンウン 河正雄 コレクション

# 故郷展

会期：2月7日～3月27日

会場：角館町平福記念美術館

### オープニング記念イベント

日時：2月7日（月） 10:30～

会場：角館樺細工伝承館

入場無料・予約不要

#### 講演

「美は国境を越えて」 西木正明氏

「二つの故郷」 河正雄氏

◆問合せ 角館町平福記念美術館 ☎ 54-3888

